

3-9. 東伊豆 ECO ツーリズム協議会（静岡県賀茂郡東伊豆町）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

人口：13,413人（男性 6,373人、女性 7,040人、6,255世帯、平成 26.1.31 現在）

地勢：東伊豆町は伊豆半島東海岸中央部に位置。東側は相模灘に面し伊豆大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島（八丈島は見えない）の伊豆七島を望み、北側は万二郎岳(1,299m) 万三郎岳（1,405m）遠笠山（1,197m） 箒木山(1,024m)といった標高 1,000m 級の天城連山が連なる。東側は全て海岸線となっているが平地は少なく、相模灘に流れ込む河川流域と山間部盆地に僅かに広がるのみである。町内の多くは天城連山の丘陵エリア、山岳エリアとなり、伊豆半島最高峰の天城山万三郎岳（標高 1,405m）まで海岸からの直線距離は、最短で約 6,000m で、場所によっては急峻な地形となっている。隣接する市町は伊東市、伊豆市（旧天城湯ヶ島町）、河津町。

面積：77.83km² 東西 15.04km 南北 13.78km

気候：＜平均気温＞3月～5月 14.2度・6月～8月 24度・9月～11月 19.4度・12月～2月 7.1度

年平均気温・約 16.2度（観測地は標高 130m）

＜平均降雨量＞3月～5月 315.5mm・6月～8月 131mm・9月～11月 210.8mm・12月～2月 133.3mm

年間総雨量 2,372mm（平成 24 年観測値）

東伊豆町は東側が相模湾に面しているため北東の風が入り込みやすく、盛夏時でも極端な猛暑になることは殆どない。別荘が建ち並ぶ山間部は避暑地として利用されている。また、冬期も極端に寒くなることはないが、北東風（ならいの風）の影響と急峻な地形のために寒気と共に上昇気流が発生、海岸付近は降雨でも僅か数十メートルの標高差で雪になることは珍しくない。



地域の概要：

東伊豆町は海岸線沿いに多くの温泉が湧出し、伊東寄りから大川温泉、北川温泉、熱川温泉、片瀬温泉、白田温泉、稲取温泉の 6 エリアの温泉地を有する。湯量は豊富かつ高温で優良な泉質を誇り、観光地として発展してきたが、景気低迷に伴い観光客数は年々減少傾向にあり、平成 15 年、約 120 万人の宿泊者数は平成 24 年には約 90 万人となっている。観光業のほか農業・漁業も盛んで、みかん栽培やカーネーション栽培、金目漁、テングサ漁は産地として全国的に知られ、ブランドとして確立した稲取金目は築地市場において高値で取引されている。東伊豆町の行政区となったのは昭和 34 年、稲取町と城東村の合併からであるが、人々の生活の歴史は古く、町内各所より先土器時代から縄文、弥生時代の遺跡が確認されている。町内最古の遺跡は、現在ゴルフ場として開発された場所

から出土した約 12,000 年～13,000 年前の人々が狩猟で使用されたとされる細石器である。縄文早期（約 9,500 年～6,500 年前）の人々が集落を形成し、定住をはじめた遺跡も数カ所確認され、特に峠遺跡と名付けられた遺跡からは石器製造跡が発見され、矢じり作成の流れ作業が行われたとされている。国内では殆ど例を見ない縄文時代の石器工場跡として確認されたが、現在、遺跡は埋め戻され住宅が建設されている。東伊豆町の歴史上特筆すべきは江戸城築城の際、西国大名たちによって町内各所が築城石採石地に選定され、多くの築城石が切り出されたことである。町内各所には石丁場と言われる築城石採石跡が確認されているが、多くが私有地となっているため、約 400 年前の貴重な文化財は殆ど保全されることが無く、立ち入りも容易に可能な状況となっている。また、町内至る所に築城石用に整形された巨石が点在、今年に入り、築城石積載の際、櫓を建てた柱を支えるため円形状にえぐられた巨石が発見されている。

●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

静岡県東伊豆町の観光エリアは温泉地として発展してきた。大型の観光施設が立ち並ぶ環境下に於いて観光客の滞在時間の多くが旅館・ホテル館内に費やされているのが現状である。天城山麓を有する山間部の緑豊かな自然を楽しむレジャーや相模灘を目前にする海洋レジャーの振興、歴史上重要な資産の保全が立ち遅れているため、エコツーリズム実践の自然環境や歴史上重要な資産が整っているにも関わらず、エコツーリズムや歴史資産の保全への意識が低い地域住民や観光関係の事業者・従事者、行政の意識改革が必要である。東伊豆 ECO ツーリズム協議会では同エリアでのガイド育成、ガイド認定制度等によりグリーンツーリズム、ブルーツーリズム、町歩きガイドを立案し、体験旅行・教育旅行のツアー商品とすることを大きな目標として地域住民、観光関係の事業者・従事者、行政にエコツーリズムによる観光振興の重要性を認識させることが課題と考えている。

これまでの取り組みは以下のとおりである。

- ・体験型教育旅行プラン作成
- ・観光ワークショップ開催
- ・東伊豆町古道調査
- ・東伊豆町築城石調査
- ・伊豆半島ジオパーク東伊豆エリア調査
- ・伊豆八十八ヶ所霊場一部訪問

(2) アドバイザー派遣実施の概要

日 時	平成 25 年 11 月 20 日（水）～平成 25 年 11 月 22 日（金） 平成 26 年 2 月 5 日（水）～平成 26 年 2 月 7 日（金）
場 所	<p>■11月実施</p> <p>東伊豆町役場、東伊豆町観光協会、稲取スコリア丘の断面と火山弾、稲取細野高原、三筋山山頂、片瀬海岸変色海域、穴切海岸、箒木山山頂、奈良本けやき公園、大川エリア江戸城築城石石丁場</p> <p>■2月実施</p> <p>片瀬エリア～奈良本エリア古道、奈良本エリア～大川エリア古道、 稲取市街地江戸城築城石各所及び古道、丸鉄園・穴ノ沢遺跡、北川エリアジオサイト、 北川海岸沿い築城石～北川鹿嶋神社～伊豆急行北川駅前築城石石丁場視察、 大川三島神社～椿園付近視察</p>
アドバイザー	アイ・エス・ケー合同会社 代表 渡邊 法子 氏
参加者	<p>■11月実施</p> <p><視察参加者> 東伊豆 ECO ツーリズム協議会会員 計 9 名</p> <p><講演会参加者> 東伊豆 ECO ツーリズム協議会会員、伊豆町議、静岡県農林技術研究所、熱川温泉旅館組合事務局、 東伊豆町有線テレビ放送、熱川プリンスホテル、丸鉄園、熱川温泉観光協会事務局他 計 34 名</p> <p>■2月実施</p> <p><視察参加者> 東伊豆 ECO ツーリズム協議会会員、東伊豆町文化財保護審議会委員 計 8 名</p>
スケジュール・方法	<p>■11月実施</p> <p>【1日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 懇談（副町長、企画調整課、東伊豆町観光協会事務局長） 視察 稲取スコリア丘火山弾、細野高原、三筋山山頂登頂、片瀬海岸変色海域、 穴切海岸溶岩流浸食海岸 勉強会 地域住民に対するエコツーリズムの意識啓発、ガイドの育成、役割、認定制度について <p>【2日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 視察 箒木山登頂、けやき公園（地元食材による昼食）、陶芸体験、 東伊豆大川エリア江戸城築城石石丁場 講演会「観光における東伊豆エリアの特性（資源・人）と可能性について」 <p>【3日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 勉強会 視察による地域資源の発見・発掘、環境教育の実施方法、 エコツーリズムに関する団体の NPO 法人化の課題と事業事例 <p>■2月実施</p> <p>【1日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 視察 古道（片瀬エリア～奈良本エリア）、古道（奈良本エリア～大川エリア） 勉強会 民間組織（NPO 法人）と行政との役割分担、他エリアとの連携 <p>【2日目】</p> <ul style="list-style-type: none"> 視察 稲取エリア（東伊豆町文化協会長によるガイド）、 丸鉄園・穴ノ沢遺跡出土品見学、伊豆北川エリアジオサイト、

- ・勉強会
NPO 法人化に伴うエコツアーの事業化、エコツアーの作成・情報発信、インバウンドツアーの受け入れについて
- 【3 日目】
- ・勉強会
東伊豆町のエコツアー受け入れに関する課題点抽出、課題に対する解決策、策定
- ・視察
伊豆北川鹿嶋神社～伊豆急行北川駅前築城石、伊豆大川三島神社～椿園付近

(3) アドバイスの内容

● 11 月実施

<各視察について>

- ・東伊豆役場、東伊豆町観光協会において

エコツーリズム推進アドバイザー・渡邊法子氏は元稲取温泉観光協会事務局長としてご活躍されていた。今回、東伊豆 ECO ツーリズム協議会へのアドバイスをいただけるということで東伊豆町役場にて副町長、企画調整課、東伊豆町観光協会事務局長と懇談いただきエコツーリズムへの取り組み、行政との関わり、協働についてお話しいただいた。



東伊豆役場、副町長と渡邊氏



東伊豆町観光協会事務局長と渡邊氏

- ・稲取スコリア丘火山弾視察

伊豆半島ジオパークのジオサイトとして静岡県立稲取高校より車で北に約 3 分の位置、かつて採石場として利用されていた崖の後に 1 万 9 千年前に噴火した稲取火山列のスコリア丘を見ることが出来る。現在、貴重なスコリア丘は保全されておらず、誰でも立ち入ることが出来る状況となっている。

<課題>

- ①稲取スコリア丘はジオサイトとしての保全・保護が必要。
- ②スコリア丘へのアクセスが容易なために火山弾がマニアによって持ち去られることが考えられる。



稲取スコリア丘



1万9千年前の噴火で吹き飛ばされた火山弾

・細野高原、三筋山山頂登頂

稲取細野高原は三筋山（標高 821m）の山麓に広がる台地で、秋には東京ドーム 26 個分のススキ野原が広がる。台地の一部は水はけの悪い土石流に覆われているため、窪地は湿原となり中山第一湿原、中山第二湿原、芝原湿原、桃野湿原を形成し、貴重な動植物、鳥類の生息エリアとなっている。

三筋山山頂からは天城連山、伊豆七島が浮かぶ相模灘のパノラマが広がり、天城ハイキングの起点のひとつである。

<課題>

- ①細野高原に関わる各団体と協力してガイドツアーを充実させ、体験旅行、教育旅行、着地型観光の提案を実施していく。
- ②景観ガイドの養成は比較的容易だが、湿原ガイド養成には3年以上かかるため適切なガイド養成講座、テキストの作成が必要。
- ③細野高原周辺を熟知している地元の人のガイドが必要。



東京ドーム 26 個分のススキ野原



三筋山中腹展望駐車場での景観ガイド

・片瀬海岸変色海域視察、穴切海岸溶岩流浸食海岸視察

片瀬温泉海岸変色海域は、恒常的に変色する海域に気が付いた東伊豆 ECO ツーリズム協議会事務局・杉本が日頃興味がある海底火山を調査する海上保安庁に情報提供したところ、過去数年間の航空写真の分析により恒常的変色域であると判断され、火山噴火予知連絡会資料に掲出され、観測エリアとなったジオサイトである。

穴切海岸は伊豆熱川温泉のホテル街より徒歩約 10 分の伊東寄りに位置し、天城山から流れ出した溶岩流が縞模様を形作った流離を見ることが出来、入り江の崖には波によって浸食を受けた海食洞も観察できる。

<課題>

- ①ストーリーを語ることが出来るガイドの育成と整備が必要。
- ②ガイドブック等制作時にはMAP内にジオポイントをプロットして旅行者に案内していくことが重要。
- ③その他、ジオポイントはエリアに点在しているので調査していく必要がある。



テレビ放映された片瀬海岸変色海域



穴切海岸の流離と海食洞

・ 箒木山登頂

天城連山のひとつ箒木山（ほうきぎやま）の標高は 1023m。万二郎岳、万三郎岳、白田峠を縦走するコースに比べると険しい箇所も少なく、比較的容易にトライすることが出来る山のひとつである。山頂部は草原が広がる広大なパノラマで、気象条件によっては相模灘に浮かぶ伊豆七島の他、三浦半島、房総半島を望み、好条件が重なると横浜ランドマークタワーや東京スカイツリーを見ることが出来る。検証はしていないが東京スカイツリーを肉眼で見ることが出来る最南端、最西端かもしれない。

温暖な気候の東伊豆エリアでは秋の紅葉を楽しむことはなかなか出来ないが、標高の高い箒木山ほか天城連山では、爽快な登山と共に鮮やかな紅葉を楽しむことも出来る。

<課題>

- ①着地型観光として「ガイドと歩く箒木山」は魅力ある観光資源だが、コース管理者の設定とコース整備を進める必要がある。
- ②コース周辺にトイレがないためトイレ整備が問題となる。
- ③保全については地権者を含めて検討する必要がある。



箒木山山頂から伊東方面を望む、国内最大級のスコリア火山大室山が眼下に見える



箒木山山頂から下田方面を望む



伊豆山間部の紅葉



- ・奈良本けやき公園（地元食材による昼食）、陶芸教室
東伊豆町奈良本にある里山公園。ホタルイベントや里の朝市、フリーマーケット、陶芸教室などが行われている。

<課題>

- ①地元食材のお弁当は食材説明を聞かせることで魅力アップ、箒木山ハイキングとセットでセット販売可能。
- ②陶芸の他、絵手紙制作など里山体験公園として価値が高い。



地元食材の説明



熱川ポークのコロッケ、クレソンは公園内採取、
柿のドレッシング



陶芸教室



大きなけやきが植栽された公園

・東伊豆大川エリア江戸城築城石石丁場視察

東伊豆町の海岸線には、江戸城築城石の調達を命じられた西国大名達が、巨石を切り出した石丁場が大川から稲取まで点在している。中でも大川エリアの谷戸山は東海岸石丁場では最大規模、分け入れば分け入る程、数多く出現する築城石群に感動するであろう。中には約 400 年前の石工が刻んだ刻印があり、比較的見つけやすい刻印石は出雲国松江藩主堀尾山城守が切り出したと言われる分銅紋が記された巨石である。無数と言っても過言ではない築城石群であるが、現在、行政と地権者との関係があまり芳しくなく、放置状態となり約 400 年前の重要な文化財は何も保全されない状態が続いている。

<課題>

- ①保全については法律に基づいて国、地方自治体、地権者を含めた調整が必要。
- ②町条例を制定して保全する方法も考慮すべき。
- ③石丁場へのアクセスが現在全くのフリー状態、早急に管理方法を考慮すべき。
- ④観光関連従事者、経営者、町職員が築城石に関して知らないケースがある。



・エコツーリズム推進アドバイザー渡邊法子氏講演会

アドバイザー渡邊法子氏によって講演会を開催いただいた。

講演内容「観光における東伊豆エリアの特性（資源・人）と可能性について」

①エコツーリズムって？

②新しいツーリズム

③エコツーリズムによる効果

④事例

・京都府京丹後市

・東伊豆町稲取温泉

⑤どうすればエコツーリズムは売れるのか？

⑥東伊豆エリアの新たな可能性

上記内容で解りやすく解説・講演頂いた。渡邊氏は元稲取温泉観光協会事務局長をされており、東伊豆町の特性を熟知されているための確に問題点・課題点をピックアップ頂き、エコツーリズムの解説、京丹後市の事例と併せて今後、具体的な行動に結びつく講演会となった。



・勉強会にて

○各視察箇所課題抽出

課題点については各視察内容に記載。

○東伊豆 ECO ツーリズム協議会の NPO 法人化に伴うメリットとデメリット

NPO 法人にこだわらず他組織形態（合同会社、社団法人等）を比較検討して、これからの事業形態に合わせた組織作りが必要。組織作りと平行して行政や他団体との関わりを持っていくことが重要になる。

○エコツーリズムの全体構想を策定していく

全体構想策定後は、エコツーリズム推進法に基づき、地方自治体から関係省庁に書類による告知をしなければならない。今回、環境省のエコツーリズム推進アドバイザー派遣事業に採択されたことは、東伊豆 ECO ツーリズム協議会が国からエコツーリズムを推進する協議会として認められたことであり、法令に基づいて活動する義務がある。

○ガイド育成を実施すべき

先ず講師を誰にするか決める。Output を設定して具体的なスケジュールをプランして実行していく。稲取の例では回覧による全戸配布のチラシを作成、参加者募集を行った。



● 2月実施

<各視察について>

・古道視察（片瀬～大川）

伊豆東海岸には下田から熱海に至るまで「東浦路」と呼ばれる古道が通っている。この古道は時代が遡ること約800年の平安時代、源頼朝が往来したとも伝えられ、その後、江戸城築城石のため西国大名の命によって多くの石工が築城石を切り出し、老中松平定信は伊豆巡視のため、伊能忠敬は伊豆測量に、吉田松陰は下田に着港した黒船に乗ろうと奔走したのである。近年になって伊豆東海岸は国道が通り、鉄道が敷設され人々の往来は変化してきたが、伊豆古道「東浦路」は現在でも姿を変えて現存し、子供達の声が響く大切な生活の道となっている。東伊豆ECO ツーリズム協議会では伊豆古道にスポットを当て、道祖神や道標、供養塔が残る古道をエコツーリズムのポイントとしてアドバイザーの渡邊氏に片瀬エリア～大川エリアの東伊豆古道を視察して頂いた。

・海防の松（はりつけの松）

江戸時代中期、海防問題がにわかにより寛永五年(1793)幕府は沿岸諸藩に海防を命じると共に老中松平定信は自ら伊豆の海岸を巡視した。定信の一行200名は三島から天城を越え3月14日片瀬に宿泊した。この巡視の結果、伊豆相模の海岸に海防のための松を植えるよう指示した。これらは海上から陸の村々や防御の様子が見えないようにするためのもので当時で40年生くらのかなり大きな松を植えたようである。今に残る木の年輪は250年前後を数えることが出来る。片瀬、白田付近の海岸には明治初期に数百本の松があったと言われているが片瀬区の手厚い保護にも関わらず今は数本残るだけである。尚、この松の別名は「はりつけの松」と云われた云い伝えがある。叶わぬ恋のためお寺に火を放った男女がはりつけにされたという云い伝えがある。(案内看板より)



<課題>

- ①東浦路の古道ツーリズムは様々な見学ポイントがあり、商品として充分成り立つ素材を持っている。複数のコース設定、テーマに沿ったコース設定でPRすべき。
- ②ウォーキングしながら各ポイントを見学するのもよいが、ガイドツアーとすることで更に魅力あるコース作りが可能となる。ガイド養成がキーポイント。



昭和天皇ご成婚記念に建てられた
道標



手に索を持つ道祖神



文久二年八月十八日と刻まれた
供養塔



左甚五郎作と伝えられる山門がある龍淵院



峠に佇む下半身だけのお地藏さん



熱川小学校裏の馬頭観音群



東浦路から絶景を望む



白田地区の大洞庵石塔群



白田地区の道祖神

・稲取市街地江戸城築城石各所及び古道

東伊豆町の南端に位置する稲取にも多くの築城石が現存し、町内の民家脇には運び出された「角石（すみいし）」（築城の際、石垣の角に使用される石）が残っている。民家の石垣の一部にも築城石が使われているケースがあり、約 400 年前の石工達の息吹が今も聞こえる町といえる。伊豆急行線伊豆稲取駅前には築城石に関する展示があり、築城石に関する概要を気軽に学ぶことが出来る。東伊豆町の海岸線付近の築城石に関する調査は未だ実施されておらず、今年に入り、稲取地区の海岸にて築城石積載の際、櫓を支えたと思われる円形にえぐられた巨石が発見された。傍らには波によって浸食された築城石が転がっているのが確認出来る。（築城石は運搬の際、運搬設備から落としてしまうと落城に繋がるとして運び出されることはなかった。）

<課題>

- ①東伊豆町の築城石群は国内トップクラスと言われているが保全されていない。さらなる調査と保全活動が進むよう東伊豆 ECO ツーリズム協議会がイニシアチブを取ることも考慮すべき。
- ②稲取から大川に至るまで古道と築城石の素晴らしいコースが設定可能だが、ガイドツアーの実施には、やはりガイド養成が必要となる。知識者、学識者による講義や勉強会を実施しなくてはならない。



伊豆急行伊豆稲取駅前の展示



東伊豆町文化協会長、岡田善十郎さんの説明



発見された櫓を支えた穴



海岸に放置された築城石（長さ約 2m）

・丸鉄園 穴ノ沢遺跡出土品見学

東伊豆町では先土器時代の石器から縄文・弥生時代の土器や古墳が発見されている。みかん狩りやマスの活け堀を運営する丸鉄園では、活け堀を造成する際、多くの土器、食器が発掘され、時代考証は縄文初期から江戸時代と幅広い時代のモノが混在していた。また、直径約 30cm ある黒曜石の塊や矢じりも出土していることから縄文人の生活が営まれていたことを裏付けている。

<課題>

- ①貴重な出土品ながら保存がしっかりされていない状況、保全・保管方法に一考有り。
- ②穴ノ沢遺跡付近は付近の峠遺跡と併せて大規模な遺跡群の存在が予見できるが、調査については行政の思惑があり現在手つかずの状況となっている。



石器と土器、黒曜石の塊

・伊豆北川エリアジオサイト視察

伊豆北川エリアの海岸には溶岩が流れて出来た柱状節理を観測する事ができる。視察当日、ガイド役のメンバーが都合により同行できなくなり、ジオサイトと思われる箇所を視察した。視察後、連絡がついたガイド役に確認したところ数十年前の焼き場の跡で、「地元の人あまり行かないよ」とのことであった。

<課題>

- ①前出した穴切海岸も同様であるが、人気のない入り江は焼き場として利用されていたとのこと。ジオサイトとし

て溶岩流などの観測が出来るポイントではあるが、裏話があることもガイドとして知っておくべき。

②ジオサイトは足場が悪いポイントが多いため、ツアーの際の安全確保が大切。

※下記視察内容については、前述した築城石、古道の内容と重複のため割愛。

- ・伊豆北川鹿嶋神社～伊豆急行北川駅前築城石視察
- ・伊豆大川三島神社～椿園付近視察

(4) アドバイザー派遣実施の効果

●参加者や関係者に与えた効果

今回、視察並びにアドバイザーの同行を終えて、今まで知らなかった東伊豆町の歴史・文化について再認識することが出来た。特に築城石に関しては東伊豆町というより国内最大級の文化財であるにも関わらず、現在ほとんど保全活動がされず、誰でもアクセスフリーな放置状態であることが危惧される。また築城石・古道・遺跡に関する記録が東伊豆町には殆ど残っていないという事実が判明した。

これら貴重な遺跡、文化財の保全について町民や観光従事者や観光事業者が、行政に対して積極的に働きかけていかななくてはならないことを実感した次第である。今回の派遣事業への申し込み当初、東伊豆町の環境保全については特にアドバイスを求めていなかった。NPO 法人化にあたっての組織作りや商品作り、他団体、行政との関わりについてのアドバイスをお願いしていたが、もっと大事なこととして、我が町に環境保全という大きな問題があるのだと参加メンバーは痛切に感じたことと思われる。

伊豆の傍ら、人口もさほど多くない町であるが、築城石だけをとっても石工たちは国内至る所から派遣され、採石をしていた町であると認識し、国内各地と関わりを持っていたのだと改めて認識した。

●今後の期待される効果

現在、東伊豆 ECO ツーリズム協議会を構成するメンバーはペンションオーナー、旅館経営者、ハーブガーデンオーナー、広告出版関連、ケーブルテレビ関連ほかとなっている。民間主導で協議会を運営しているが、行政はエコツーリズムに対し、認識があまりなく、エコツーリズム推進法に基づく全体構想策定についても協働姿勢はない。「書類が出来たら持ってきて下さい。」という姿勢であるが、地元ケーブルテレビの放映やメンバーによる教育委員会への働きかけで少しずつ理解されはじめている。

今後、町民を対象にした「大人のふるさと学級」（小学生対象のふるさと学級は教育委員会指導で実施）を展開し、町民に対し東伊豆町の貴重な文化財、史跡、古道を認識させ、町の素材がエコツーリズムに繋がり、町の発展のひとつであることを提示していく予定である。

●今後の取り組み

今後の取り組みは、

- ①「大人のふるさと学級」をテーマ毎に分けて 2014 年 4 月より開講、毎月開催とする。

＜大人のふるさと学級の開催主旨＞

- ・地元町民へのエコツーリズムへの理解度向上
- ・地元の文化、歴史、ジオの再認識
- ・エコツアーガイドの養成

- ②「大人のふるさと学級」の企画と同時進行で商品開発を進め、エコツアーのメニュー作りに着手する予定。

- ③具体的に NPO 法人化を目指し 3 月下旬に監督官庁に書類を提出する予定。

(5) アドバイザー派遣を実施して（地域からの声）

●参考となった事項

- ・当初 NPO 法人化を目指して活動していた東伊豆 ECO ツーリズム協議会であるが、エコツーリズムを推進するにあたり組織のあり方をアドバイス頂き再考することで、組織形態による事業方法を認識でき、改めて NPO 法人として活動するメリットが理解できた。
- ・アドバイスを受けることで商品として地域を見ることが出来るようになった。
- ・他エリアの状況を伺うことで東伊豆町の町内に資料が少ないという事実、学芸員がいないという現状を認識すると共に資料の必要性、学芸員の存在の重要性を認識した。

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

アイ・エス・ケー合同会社 代表 渡邊 法子 氏

●地域におけるエコツーリズム推進の取組の現状と課題

平成 25 年に発足した東伊豆町 ECO ツーリズム協議会は民間が主体で設立されました。観光が主要産業の東伊豆町ですがこれまで観光については海岸線の温泉場が中心でした。東伊豆町には海だけでなく山の自然資源や築城石丁場などの歴史文化資源も豊富であり、活かしきれていない魅力的な自然観光資源をエコツーリズムの推進によって活かそうとする取り組みが始まっています。

民間主導でエコツーリズムの推進が始まりましたが、行政との協働体制や今後の推進方法について課題を生じている状況です。

課題としては以下の点があげられます。

- 1、山の景観や生息する動植物等の自然環境資源の活用方法と商品化
- 2、築城石をテーマに築城石丁場の保全と地域振興をおこなう推進方法
- 3、古道など、その他の地域資源の発掘および活用方法と商品化
- 4、エコツーリズム（着地型）商品の企画、販売の仕組み作り
- 5、効果的な情報発信の仕組み作り
- 6、人材育成の仕組み作り
- 7、事業の継続化
- 8、行政との連携、協働

●特に魅力を感じた地域の自然観光資源

東伊豆町は伊豆半島の東部に位置し海と山に囲まれ魅力的な自然観光資源が豊富な地域です。特に魅力を感じた自然観光資源は以下のとおりです。

1. 古道・・・海沿いから山へ向かう石垣や坂道の多い古道は魅力的。
2. 築城石丁場・・・貴重な資源。エコツーリズムとしての活用が望まれる。
3. 簗木山、三筋山・・・山から海を見る四季折々美しい景観、伊豆七島が望める。
4. シラヌ田の池・・・蛍、モリアオガエル、動植物の観察に適している。
5. 石仏・供養塔・・・古道の道端の石仏。石工が多く存在した町としての資源。
6. 縄文時代の古墳・・・7000 年前の遺跡から黒曜石など貴重な出土品がある。
7. 漁港・・・漁師まちの光景、地引網の体験。
8. 海岸線・・・ジオパークとして貴重な地質が点在する。

●アドバイス（講義等）の概要

- 1、人材育成事業について
- 2、地域の人によるエコツアーの実施環境づくり
 - － 1 地域で取り組む理解と協力
 - ・地域全体で事業の継続化を
 - ・担い手づくりと組織化
- 3、エコツーリズム商品を流通させるためのツアーデスクの設置

- ・事例紹介
- ・事業の継続化

4、エコツアーメニューの種類と特徴

5、メニュー別組織体制の強化

6、持続可能な組織体制の構築 等

民間主導で始まったエコツアーの推進において東伊豆町行政との連携・協働は不可欠であることをお伝えしました。まずは人材育成事業を東伊豆町行政と協働体制に運べるようアドバイスし、また組織を継続するにあたり事業をどのように組み立て、財源をどのように確保していくかという課題についてアドバイスいたしました。また商品化は流通を念頭に置き観光地であるというマーケットを活かして設定するようアドバイスしました。

●全体構想への取組状況・意向について

民間主導で立ち上がった組織の東伊豆町 ECO ツーリズム協議会として、「築城石」の石切丁場など地権者との話し合いや保全が必要不可欠であるため、行政との協働体制により、基本構想の策定を推進していくことが必要であると見受けられます。

これまで保護措置が講じられていなかった「築城石」の資源について保全しながら活用できるよう、東伊豆町におけるエコツアー推進全体構想は、策定をしていくべきものと考えます。

●地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

東伊豆町は伊豆半島の海と山が共存しジオパークとしての地質をはじめ自然観光資源に非常に恵まれている地域です。縄文時代から人々が暮らし、江戸時代には築城石を切り出し運んできたことを、よくうかがい知ることができる素晴らしい文化資源が点在している地域でもあります。地権者との調整が難しい部分もあり、保護への配慮がまずは課題ですが、適切な利用の方法を模索し定めながら推進できますよう、東伊豆町行政と地域全体で取り組む事が大切かと思えます。地域内での理解を深め、次世代に郷土愛を育み、担い手を育成するためにも、行政と協働して人づくり事業から着手し、さらに地域の魅力を活かしたエコツアー商品化をめざして事業が継続できるよう推進して頂きたいと思えます。